



背負子と手おけを体験する子どもたち

昔はこんな道具を使っていたんだね

1月18日に広見小学校で昔の道具を体験する授業が、3年生を対象に行われました。
授業では背負子、手おけ、炭火アイロン、石臼、洗濯板が用意され、子どもたちは見慣れない道具に興味津々。講師の郷土歴史館職員から「みんなのひいおじいちゃんやひいおばあちゃんが使っていた道具なんです」と説明を受けるなど、子どもたちは楽しみながら昔の生活を学びました。

子どもたちの笑顔のために

可児工業高校建設工学科の3年生が、手作りした紙芝居読み聞かせ台を図書館に寄贈しました。
平成26年度に続き2台目の寄贈であり、生徒が1年かけて製作した読み聞かせ台には、磁石を使用し倒れにくくするなど改良が加えられています。
1月20日に行われた寄贈式には、図書館で乳幼児への読み聞かせを行うボランティアの皆さんも参加し、1台目の活用状況や感謝の気持ちを生徒に伝えました。



読み聞かせ台について説明する生徒



みその生産者と会話を楽しむ子どもたち

おいしい食材をありがとう

1月27日に土田小学校で、ふれあい給食が開催されました。学校給食センターが企画したもので、学校給食の食材を生産している地元生産者らを学校に招き、子どもたちと交流しながら一緒に給食を食べました。
手作りみその生産に携わる人を招いたクラスでは、みそを大豆や米から全て手作業で作っていることや、年間600kg以上生産していることなどを聞き、子どもたちから驚きの声が上がりました。

悪い鬼を追い払おう

市内各保育園・幼稚園で2月3日、節分の行事が行われました。
めぐみ保育園では金棒を振り回しながら赤鬼と青鬼が登場。最初は逃げ回っていた園児も、用意した炒り豆を手で「鬼は外、福は内」と元気に叫びながら鬼を追い払いました。
最後に鬼の嫌がるイワシとヒイラギの飾りを作り、皆で1年の無病息災を願いました。



一斉に豆を投げる園児たち

住みごこち一番・可児に向け、企業と連携

市は、ワーク・ライフ・バランスに取り組む企業を広く紹介し、子育てや介護など生活と仕事を両立できる環境をつくり出すことで、市民が充実した暮らしを送ることができるまちづくりを進めています。これまでに市の呼びかけに賛同した41社が登録企業となっています。
1月20日には、登録企業の中から、特に優れた取り組みを行っている(株)大垣共立銀行とKYB(株)の2社と連携協定を締結しました。(株)大垣共立銀行は介護と仕事の両立を支援する取り組みなどが、KYB(株)は有給休暇の繰り越しや従業員の健康管理などが評価されたものです。
また当日は文化創造センター・アールでワーク・ライフ・バランスに関するセミナーを開催しました。市内企業の関係者などが、学識経験者からワーク・ライフ・バランスに関する現状や考え方について学びました。



左からKYB(株)執行役員 畠山俊彦さん、富田市長、(株)大垣共立銀行専務取締役 加藤芳之さん



セミナーで講演した岐阜経済大学の竹内治彦さん



覚書を締結した富田市長と米田秀弥支店長

災害時でもつながる安心

市と西日本電信電話(株)岐阜支店は1月11日、災害時に被災者の通信手段を確保するため、特設公衆電話を指定避難所に設置する覚書を結びました。
特設公衆電話は通話料無料の災害時優先電話で、災害時の通信制限中でもつながりやすい特徴があります。
今後、小学校や公民館など39カ所に設置できるようにし、防災訓練で活用するなど防災対策を進めていく予定です。

中学生が市長に提案

1月19日に、中部中学校の3年生4人が市役所を訪れ、国語の授業の一環で、より良いまちづくりをテーマに話し合った結果を市長に報告しました。
授業では、目指す可児市像を設定し、市の現状や問題点を調査した上で自分たちにできることを検討。地域通貨Kマネーの紹介ポスターの作成や新しいマスコットキャラクターを使ったチャンバラ合戦IKUSAのPRなど、若者目線で親しみやすい内容を提案しました。



資料を見せながら報告する生徒